

学校だより 《ひきの》

北九州市立引野中学校

校長 早崎 淳二

第11号

「挨拶」「返事」「姿勢(立腰)」

平成29年11月15日 発行

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

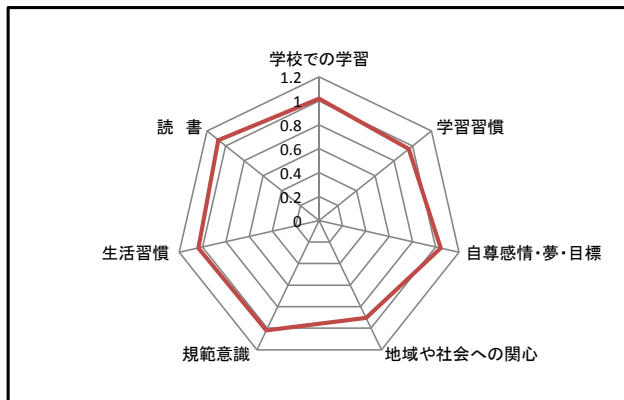
なお、調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・文章を適切な形に書き直す問題に課題があり、正しい言葉の使い方や書き方について復習する必要がある。	下回っている
国語B	・言語についての知識・理解・技能について課題があり、言語事項や伝統的な言語文化についての基礎内容を定着する必要がある。	同程度である
数学A	・計算問題については反復練習の機会も多く、理解できている生徒が多いのに対し、論理的思考が求められる内容については復習が必要である。	下回っている
数学B	・筋道を立てて考え証明することを記述で答える問題に課題があるが、全体的に無回答率が低く、難しい問題にもあきらめずに取り組んでいる。	同程度である

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



全国比(全国平均:1)

質問紙調査の結果分析

- ・話し合い活動や、与えられた課題に積極的に取り組むなど、学校での学習活動は充実しているが、自ら学習計画を立てて勉強に取り組むことができていないため、家庭での学習習慣の工夫改善が必要である。
- ・規範意識が高く、将来への夢や希望を持っている生徒が大半を占めている。また、自らのよいところを認め、積極的に進路を考えている生徒が多い。
- ・地域や社会への関心が全体的に低く、地域の行事等にも積極的に参加できていない。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・学力定着サポートシステムの活用により、個に応じた基礎学力の定着を図る。
- ・放課後の補充学習や、宿題プリントを中心とした家庭学習、課題の提出物を徹底する取組を継続する。
- ・学年が上がるとともに、時間、内容ともに効果的な自主学習の習慣を身に付けさせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・新聞やニュースに触れ、社会や時事に関心を持つ機会をつくったり、積極的に地域行事に参加する機会を設けたりすることで視野を広げさせる。
- ・学校通信、学年通信、懇談会等で基本的な生活習慣や家庭学習の意義、取組について理解を図る。